

第84回実技セミナー in 東京

開催報告



開催日時：2019年4月28日（日）9時半～16時

開催場所：ラックヘルスケア株式会社 東京オフィス

主催：NPO 法人 口から食べる幸せを守る会*

共催：ラックヘルスケア株式会社

後援：株式会社クリニコ 日清オイリオグループ株式会社 渡辺商事株式会社 株式会社大塚製薬工場

<敬称略>

開催目的

- 包括的な食支援に関する知識や技術を得ることができる。
- ベッド上、車いすでの基本姿勢と五感を活用する食事介助方法が理解できる。
- 食べる力を引き出す、ベッドサイドスクリーニング評価の方法を理解することが出来る。
- 基本的な食事介助技術を身につけ、自施設においての実施につなげることができる。

KTSM 実技認定者（講師・アドバイザー）一覧

<敬称略>

氏名	所属	職種（摂食嚥下に関する資格）
小山珠美	NPO 法人口から食べる幸せを守る会* 理事長 JA 神奈川県厚生連 伊勢原協同病院	看護師 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 KTSM 実技認定者
金 志純	社会福祉法人鶴風会 東京小児療育病院	看護師 摂食・嚥下障害看護認定看護師 KTSM 実技認定者
竹市美加	訪問看護ステーションたべる	看護師 摂食・嚥下障害看護認定看護師 KTSM 実技認定者
劔持君代	公益社団法人 群馬県医師会 群馬リハビリテーション病院	看護師 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 KTSM 実技認定者
山下ゆかり	医療法人社団 永研会 ちとせデンタルクリニック	歯科衛生士 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 KTSM 実技認定者

アンケート集計結果 (参加者 30 名 回答者 26 名)

職種

26

回答	票数	%	
医師	0	0%	
看護師	12	46%	
歯科医師	1	4%	
歯科衛生士	4	15%	
栄養士・管理栄養士	3	12%	
言語聴覚士	1	4%	
理学療法士	0	0%	
作業療法士	1	4%	
介護職	3	12%	
薬剤師	0	0%	
その他	1	4%	

勤務施設

26

回答	票数	%	
病院	8	31%	
施設	10	38%	
診療所	4	15%	
在宅訪問	3	12%	
その他	1	4%	

経験年数

26

回答	票数	%	
1~4年	3	12%	
5~9年	4	15%	
10~19年	10	38%	
20年以上	9	35%	

●参加前と参加後で考え方がどのように変化しましたか？

<p>KT スプーンの柄が長いので、食介向きと思いこんでいた感がありましたが、自食に有効なことが、よくわかりました。</p> <p>小山先生の書いて考察を深める大切さを教えていただき、今後の勉強方針に活かして行きたいと思います。</p>
<p>事実に基づく根拠と具体的な方法について一つの事例を自分のものにする事</p>
<p>食事援助に対する根本的な考え方は変わりませんが、「食べられない」と一言で言っても、その方を取り巻く環境を細かくアセスメントする能力が必要不可欠であり、その能力が絶対的に不足しているため、今後知識を身に付け、経験を増やしていかなければならないと痛感しました。</p>
<p>現在だけではなく、過去や未来を見る！具体的には？の言葉が心に残りました。</p> <p>考える力をつけたいです。</p> <p>テキストを活用してとにかく書きます！</p>
<p>今まで曖昧だったり、判断するところが職員で個人差があったところが多く、同じものさしを持つことが難しく、それが利用者さんに良くない結果となること、どうアプローチしていけばいいのか明確にできなかったことが多かったと思います。今まで利用者さんに対して申し訳ない気持ちがいっぱいです。まだ自分は何もやれていないと反省しました。始める勇気ももらえました。</p>
<p>バランスチャートをつけてから、どのように展開していけばいいか(自分の考え方をもっていけばいいか)、理解する事が出来た。今はまではチャートをつけてからの、効果的な実践に結びつける事が出来なかった。</p> <p>それはアセスメントが不十分だったと理解できた</p>
<p>施設職員や家族にポジショニングを指導していたが、説明でかなり抜けていることが多かったことに気づいた。</p> <p>できることが増えているように感じていたことがまだまだ自分のものになっていなかったと思いました。</p> <p>継続して関わりがなかなかとれずにいるがそれでも症例数よりかかわり続け、考え続けることのほうが大切だと学びました。</p>
<p>単純に、やる気が出ました。忙しいを言い訳に、栄養士として一番大切にしなければならない、「食べたい」と思う気持ちに寄り添っていませんでした。ご利用者や家族の笑顔を、事例として拝見し、涙が出そうになりました。この気持ちに応えるべく、慌ただしいながらも良い環境に恵まれている自分を一喝。まずは、一步踏み出し、本当の意味での嗜好調査を実施。食べたい思い、食べたくない理由を確認していく所から。と、考えが変わりました。</p>
<p>アセスメントをきちんとする事</p> <p>利用者の目線や安楽を考えてケアにあたること。</p>
<p>1 事例をとことんアセスメントすることが大事だということ。アセスメントし、先を見通した細かな計画と評価の必要性を学びました。みんながわかる計画、誰がやっても同じ介助ができることの重要性を学びました。</p>
<p>なかなか病院内で摂食嚥下に関する理解が進まず悪戦苦闘して煮詰まっていたのですが、参加させて頂き、立場や職種が違って同じように悩みを抱えている人がいて、教育、指導してくださる方々がいるということが、大変有難いと感じました。</p> <p>まだまだ諦めず、前向きに突き進む決意ができました。</p>

先生もおっしゃっていましたがミールラウンドを漠然とやっていた気がします。その場その場でああやったらいいこうしたらいいというものの冷静に問題点をあげ共有することができていなかったなと思います。

食事介助の方法は、職場で実践していましたが、より細かく気をつけるところなど知ることができました。KTバランスチャートを使っての実践評価の事例を見て、ぜひ使ってみたいと思いました。

自分自身としては以前に増して「口から食べる幸せ」について考え、学び、行動するのを感じました。また、一般の人が、口から食べられない状態に対して医学的に理解することの大切さを思います。

食事姿勢や介助方法についてもっと具体的に提示していかないといけないと感じました

参加前は自分が技術を身につけたいと言う思いでしたが、やはり専門技術を身につけたナースに施設に来ていただき、職員皆で考えて行くようにしていくコーディネートも大切だと思いました。

他職種の知識や技術だと思っていたことも食支援という包括的な視点の中では、お互いにできることが増えた方が支援の幅が広がる。意識の面から変えていくだけでも長い先では成果には大きな差があると思った。

摂食嚥下では、環境や姿勢の調整の時点から大きく「食欲」に影響してくるものなのだと感じた。

参加前後で考え方が変わったということはありませんが、食事場面でのポジショニングの手間が大変かかること、また かけなければ 食べさせられないことに 驚きました。

衛生士だから と言いつせず、これからは もう少し踏み込んだ連携が出来れば良いと 考えています。

V Fなどの検査結果にとらわれずに、自分で観察、アセスメントする力をつける大切さ、患者を多角的にアセスメントし、できることは何か、諦めずに熟考していくことが必要だと感じました。

漠然とではなく、具体的に考える事が大切だと実感しました。

勉強不足を痛感しました。内容についていくのが精一杯で聞き落としもあったのではと不安です。ノウハウの蓄積→経験を積む→見極めが大切 その方の実質的なQOLを見極めるそれを支えられるようになりたいと切に思っています。

参加前はKTBCを活用するにあたり展開方法が不明瞭であったが、連動して評価することが重要ポイントであることや、展開へのアプローチを学ぶことができました。

チャートの使用方法が漠然としていたが、取り組むにあたってのきっかけが見えたように思う。

ご家族様の口から食べて欲しいという思いや、出来るだけ経口から食事を摂取してもらうことで栄養を摂ってもらいたいという気持ちから食事介助の方法を考えていたが、本人の思いを尊重した介助や自力摂取の促しが大切であると思った。

実際に介助される側の体験もでき、今までの介助方法では、本当に患者様の食べやすい方法で介助できていたわけではなかったと感じ、本人の食べる動作に合わせることや、安楽な姿勢への見直しの重要性を学んだ。

また、今までは、KTBCを施設のご利用者様全員に利用して評価できればと思っていたが、今回参加し、まずは、現在食べることが難しいけれど食べたい思いの強い方お一人からでもKTBCを利用し、じっくりとどうしたら食べられるかを考えていきたいと考え方が変わった。

バランスチャートを使ってのアプローチの仕方で自分が不足していた部分を知ることができ、再確認することができました。

●セミナーで学んだことをどのように現場で活かしていきますか？

<p>まずどこから取り組むかを、考えるにあたり「KT バランスチャート」を取ってみることを実践してみます。院長はバランスチャートは病院だから出来るが、自分達が行っている施設では無理と言ってますが、やることの意義を確認しました。</p>
<p>ご利用者の姿勢を調整することから始めます。 介護技術を身につけ、思索と経験の積み重ねを通じて活かしていきたい。</p>
<p>ポジショニングに関しては、現場でもすぐに取り入れられるため、スタッフに内部研修を開いたり、食事の現場で細かく指導していければと思います。 まずは気になる方おひとりからでも、KTBCを用いて細かく丁寧に展開し、実践していき、評価し今後につなげていきたいと思います。</p>
<p>今回学んだポジショニングやシーティング、食事介助方法を病棟スタッフにも伝えて、おいしく食べられる患者を増やしたいです。 患者の背景も考えながら関わるようにします。</p>
<p>先ずはは KT バランスチャートに賛同してもらええる仲間を作り、一つ一つの症例を丁寧にやっていきたいと思えます。</p>
<p>本日、自分の父が退院してきます。脳梗塞の為嚥下障害が強いので、在宅でも活かしていこうと思えます。また、仕事の上では、先生がおっしゃっていたように、1つの事例にもっと、もっと丁寧に取り組み、アセスメントをしっかりした上で、効果的なケアができるように取り組んでいきたいと思えます。</p>
<p>同じことを学んできた職員と症例を決めて教えてもらいながらかわり続け、利用者さんに学ばせていただきたいと思えます。</p>
<p>まずは、KT チャートを使用する事に慣れ、実例を増やすべく、まずは1名から取り組んでいきます。ゆくゆくは、3か月後の栄養評価としても活用。包括的な見方が他職種とできる様に、現場に落とし込みたい。</p>
<p>まず、日々のえん下障害の方に学んだケアを取り入れる。ステーションスタッフに伝達講習をする。他のスタッフにこの研修を受けてもらう。</p>
<p>一人ではできないので、他スタッフを巻き込み、他職種を巻き込んで取り組んでいきたい。少しづつですが、声を上げて実施していきます。</p>
<p>まずは KTBC の特徴と利点を伝え導入をもちかけ、当院での事例検討を通しアセスメントをしていくことで、もっと摂食嚥下に目をむけて興味を持ってもらい、患者の為に出来ることを1つ1つ増やしていきます。</p>
<p>取り急ぎいま拝見している方をチャートに落とししていきたいと思えます。 一緒に働く衛生士さんは一緒に伺ったので 施設の現場のスタッフにも話をして共有していきます。</p>
<p>食事時中の体位保持の方法、スプーンの使い方をケアスタッフにも伝えていきたいと思えます。 KT バランスチャートを使った評価を取り入れたいと思えます。</p>
<p>小山先生のお話<可逆的な食べられない人と、不可逆的な食べられない(最晩年の)人がいること>を一般の人に向けて啓発する本づくり、原稿づくりをしていきます。また、可逆的に食べられない状態になる前に「食べる力を弱らせない」についても啓発する本づくり、原稿づくりをします。</p>
<p>まずは自分が実践していき、それを多職種に積極的に伝えていきたいと思えました。</p>

ポジショニング、リードスプーンなどから、これまでのケアに、まずは疑問や問題意識、興味をもってもらいたいです。

それを共有して話し合えるところまでいきたいです。そして、施設でセミナーを開きたいです。

まずは自分ができることから。リハの離床だけでなく口腔ケアを合わせて実施をしたり、研修前には他職種に任せていてやっていなかったアプローチも意識しながら実践してみたい。結果的には出来ることが増えた方がお互いの専門性の理解に繋がり、技術や知識を伝え合うプロセスがチーム医療の強化にもなり、より良い支援をしていくための雰囲気作りにもなると思う。何事もコツコツと。

環境整備や体位調整の時点から患者の視点を持つことを思い出して、食事の準備から介助は始まっていることを意識して行動したい。

歯科衛生士の立場で 口腔内の状況 食事の残り方、残る場所 嚥下時の状況など お話してきましたが、だからどう食べさせるのか という所まではなかなか アドバイスが出来ていなかったと思います。この1度の勉強会参加で どこまでアドバイス出来るか 自信はありませんが、少なくとも 今日習ったポジショニングについては どんどん発信していきたいと思います。これ程きっちりやっている場面を見たことがなかったので。

K T B C の展開方法、採点方法の考え方は今回、新たな学びとなった部分が多かったです。『活動』や『認知』が食事場面に限る・・・など。さっそく現場での指導やアドバイスに活かしていきます。食事介助のスプーンテクニックは繰り返し現場でポイントを守りながら実行していきたいと思います。

まずは一人の患者さんに、K T B C を使用してアセスメントを取ってみようと思いました。

他のスタッフとも、情報共有し一緒に考えてみたいです。

もっと学ばないと中途半端な学びではとても現場では活かせないです。 本を使い自分で何度も反芻し納得してから、施設での同意共有周知を行っていききたいです。

対象者を選定し、KTBC を用いて具体的な食事介助の成功例を現場に落とししていきたい。そして食べることのサポート役として活動したい。

個々に合わせた取り組みについて、チームで共有するための方法の一つとして使用させていただきます。チームで共有し繰り返しチャートを活用することで、自分だけでなく、多くの人たちが必要性を感じ積極的に取り組めるようになると思います。

K T B C を食べる意欲はあるが、現在は食べるのが難しいような方からあてはめてみて、じっくり対応を考えアプローチをしていきたい。また、他職種との連携の大切さも学び、姿勢の直し方や口腔ケアの方法、認知の状態など、他の職種の方が詳しいことがたくさんあるので、話し合う機会を今までより多く持つていく。

人に伝える、実践でいかせるポジショニングなど指導の仕方を学ばせて頂きました。自施設でも実践でいかせる食事介助のポイントやポジショニングを院内学習会や臨床の場でスタッフへ伝えて行きたいと考えてます。

●その他、感想

<p>受講したことを実践に生かすことの大切さを再確認しました。 カンバッチつけて頑張ります。</p>
<p>環境と学びの場を頂きありがとうございます。 また、学びにきます。よろしくお願いします。</p>
<p>いろいろな職種が参加していたので、自分の職場でも仲間を増やしていきたいと思いました。 講師の先生方や受講者の方々の前向きな姿勢に勇気？やる気？元気？をいただき、これからも頑張ってみよう！ という気持ちになりました。一日ありがとうございました。全国大会も楽しみにしています。</p>
<p>私は二回目の参加にもかかわらず、体位調整など、上手くできてきかない事を痛感しました。毎回、先生方の熱心な姿勢や、熱い思いに触れるたびに、自分のモチベーションが上がり、このままではいけない、自分も頑張らねばと感じます！また、同じような思いをもった方達ともお話しでき、情報交換も刺激になりました。お弁当と美味しかったです！ 全国大会にも、是非参加させていただきます。ありがとうございました。</p>
<p>小山先生の講義は、これで4回目。ブレルこと無い思いに共感。これからも、自分自身のモチベーションを保つために研修に参加させて頂きます。お身体に気を付けて、これからもご活躍ください。そして、アドバイザーの竹市先生にも、実技として具体的な方法を教わりました。実践で役立つ様に、他職種にも話をして行きます。有難うございました。</p>
<p>6Gの指導者の的確なアドバイスは参考になりました。ありがとうございました。実技演習の時間あと、30分欲しかったです。</p>
<p>アセスメント、ポジショニング、食事介助の技術をしっかりと身に付けていきたいです。また、参加させていただきます。ありがとうございました。</p>
<p>小山先生の話聞いたたび、看護師の出来ることが広がる気持ちになります。また準備や指導をしてくださる方々にも活力をもらっています。 自分の勤める病院がより良い方向に向かうよう、目標を持って看護師として出来ることを最大限に生かし、自分の限界を決めず挑み続けて行きます。</p>
<p>参加している皆さんの熱意がすごく感じられました。研修1日があっという間でした。 ありがとうございました。</p>
<p>小山先生に、書籍にサインをしていただきました。「挑め」の言葉を大切にします。</p>
<p>毎回、自分の介助のセンスの無さに恥ずかしくなりますが、これに懲りずまた、参加します。</p>
<p>ポジショニングや食事介助にしてもそれぞれが奥深いテーマなので、もう少し時間をかけて欲しい部分もあった。また、事前に用意するように指定があったペンライトや聴診器も持参したが体験が出来なかったのが残念だった。そのあたりについては進行内容にも配慮をしてもらえると幸いに思う。でも、全体的には非常に良い内容だったのでそれ以上の収穫はあり、また参加したいと思えた研修だった。今回はありがとうございました。今後ともよろしくお願いします。</p>

テキストが第三版になることで、やはり第二版とは多少ページや項目が異なるのかと思います。すごく困ったということはありませんでしたが、その点にも触れていただけると受講時より混乱は起きないのではないかと思います。

パーキンソンの3か月絶食の患者さんの事例を見て、当院で経口摂取が叶えてあげられなかった患者さんを思い出して涙が出てしまいました。重度の嚥下障害ではありましたが、何かもっと他にできることはなかったのか、頭の中でぐるぐる考えてしまいました。こういう後悔にならないよう、日々、考えて実行してチームで取り組んでいくべきなのだと痛感しました。

「また来たの？」と言われてしまいそうですが、これからも定期的に小山先生のオーラのシャワーを浴びて、また強い意志で現場に戻るために今後も研修に参加させていただきたいと思います。

山下先生に教えていただくのも2回目でした。言語化することの大切さ、きびきびと実技指導していただいて、いつもほれほれしてしまいます。本当にありがとうございました。

小山先生、スタッフの皆様ありがとうございました。今回のセミナーに参加させて頂けて本当に良かったです。テキストをもっと読んで、勉強します。

午後の事例展開とても駆け足だったので自分の考えがあつたかどうかある程度はわかりましたが答是的なのがゆっくり見ることが出来たらありがたかったです。

今回のセミナーでお世話になった平成会（松風）の長江と申します。この度は、小山先生直々にご指導いただきありがとうございました。これからKTBCを活用するにあたり、相談窓口を紹介していただけるとありがたいです。宜しくお願いいたします。

後悔しない支援を今後も行っていく上で、自分のツールの一つになればと思います。有意義な研修でした。今後も繰り返し参加することが出来ると、もっと深められるのではないかと感じました。機会がありましたらまた参加したいと思います。ありがとうございました。

全体での講演の他、グループワークでも丁寧に介助方法を指導していただきありがとうございました。同じグループにも違う職種の方が集まっていたことで、様々な意見を聞くことができ大変勉強になりました。

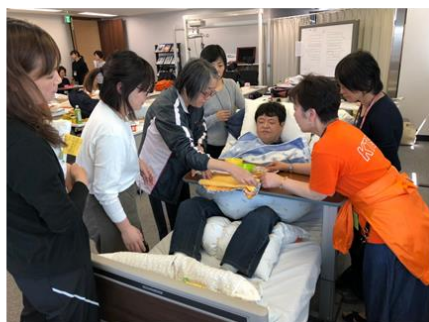
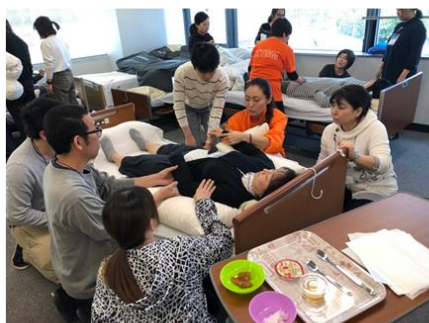
小山先生はじめ竹市さんスタッフの方々大変お世話になりました。

実践で活かせる実技指導で勉強になりました。ありがとうございました。

今回、院内のスタッフと来る予定でしたがシフトが合わず一緒に来ることができませんでした。

次回はシフトを合わせて参加したいと考えています。

セミナーの様子



グループ写真



口から食べる幸せの輪を広げましょう
みなさま ありがとうございます！

